

大学院修士課程授業一覧

2022 年度



学校法人京都市英館

京都看護大学

目次

1. 共通科目

特別研究	1
看護研究特論	2
看護研究方法	3
看護倫理特論	4
看護理論	5
看護管理論	6
看護政策論	7
地域包括ケアシステム論	8
医療コミュニケーション特論	9

2. 看護の智探究領域

看護の智探究総論	10
看護マネジメント特論	11
看護教育学特論	12
クリティカルケア特論	13
臨床ナラティブ特論	14
エンドオブライフケア特論	15
看護リフレクション特論	16
がん患者・家族看護特論	17
看護の智探究課題演習	18

3. 地域生活支援探究領域

地域生活支援探究総論	19
精神地域生活支援特論	20
リプロダクティブヘルスト論	21
成人地域生活支援特論	22
高齢者地域生活支援特論	23
在宅看護特論	24
公衆衛生看護実践特論	25
地域生活支援探究課題演習	26

4. 地域生活支援探究領域 保健師コース

公衆衛生看護学特論	27
健康教育・地区組織育成特論	28
公衆衛生看護管理論	29
学校保健論・産業保健論	30
公衆衛生看護活動特論Ⅰ	31
公衆衛生看護活動特論Ⅱ	32
公衆衛生看護活動演習Ⅰ	33
公衆衛生看護活動演習Ⅱ	34
保健統計学	35
疫学	36
保健医療福祉行政システム論	37
保健医療福祉行政システム論演習	38
公衆衛生看護学実習Ⅰ	39
公衆衛生看護学実習Ⅱ-a	40
公衆衛生看護学実習Ⅱ-b	41
公衆衛生看護学実習Ⅲ	42

授業科目	特別研究	時間割コード		90101	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	8(240)	必修	2通
担当教員	菅田 勝也 ・ ◎田口 豊恵 ・ 井上 深幸 ・ 久留島 美姫 ・ 滝澤 寛子 ・ 吉田 えり ・ 平 英美 ・ 中川 晶 ・ 三林 聖司 ・ 田村 葉子 ・ 繆坂 由紀 ・ 中森 美季 ・ 石井 敦子 ・ 河田 志帆 ・ 前原 なおみ ・ 磯邊 厚子				
授業目的・目標	<p>【目的】 専門科目の「看護の智探究課題演習」、「地域生活支援探究課題演習」で学修した研究過程および明らかになった研究疑問に基づき、一連の研究能力を培う。</p> <p>【目標】 1) 研究課題を明確化し、研究目的を設定できる。 2) 研究目的に応じた研究計画が立案できる。 3) 研究倫理委員会の承認得ることができる。 4) データの収集・分析ができる。 5) 結果の論文作成ができる。 6) 研究成果を発表できる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。 ◎</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。 ◎</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。 ◎</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ◎</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 修得した共通科目・総論・演習の学修を活かしながら、各領域の研究に即した自己の研究課題を設定し、一連の研究過程を進め、新たな智の生成に至る。</p> <p>【授業計画】 第1講～第16講：倫理審査結果を踏まえ、必要時研究計画を修正加筆した上で研究を実施する。 第17講～第84講：データ収集をしつつ、ディスカッションを通して、分析および解釈をすすめる。 第85講～第86講：領域別に中間発表をする。 第87講～第120講：論文の作成、論文審査、論文発表会、最終論文の作成</p>				
使用テキスト	特に定めない				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	全研究過程への取り組み、資料、プレゼンテーション、論文などで総合的に評価する。				
事前事後学修	研究過程を通して、主体的で能動的な学修を全教員で支援します。 知的好奇心と探究力を手がかりに、暗黙知を形式知への旅を進めましょう。				

授業科目	看護研究特論	時間割コード		90201	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	必修・選択	1前
担当教員	豊田 久美子 ・ ◎田口 豊恵 ・ 久留島 実姫 ・ 田村 葉子				
授業目的 目標	<p>【目的】 社会および医療・看護の動向から看護研究を行う意義について理解し、看護実践科学に貢献するための原理および研究の進め方について学び、研究者として新たな知見を得るとともに臨床現場に還元できる実践的な研究能力を高める。</p> <p>【目標】 1. 看護研究の意義と役割について説明できる。 2. 看護研究のプロセスと進め方について説明できる。 3. 看護研究における倫理に関する現状と課題について説明できる。 4. 看護研究におけるクリティークの意義について説明できる。 5. 研究計画書の重要性と作成方法について説明できる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいつくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいつくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいつくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				◎
授業計画	<p>【授業概要】 社会および医療・看護の動向と看護研究の意義およびその役割、研究課題の設定と研究の進め方の概要、看護研究における倫理に関する現状と課題、研究プロセスの倫理面での遵守事項について知見を深める。研究疑問の絞り込み、文献検索、文献検討の方法、国内外の文献購読、クリティークを通して、研究計画の重要性と作成についての理解を深める。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 第1講: 講義計画ガイダンス、社会および医療・看護の動向と看護研究、看護研究の意義と役割、看護実践科学に貢献するための原理(豊田) 第2講: 文献検索の方法(久留島) 第3講: 研究疑問の絞り込みと看護的意義①(久留島) 第4講: 文献検索の方法②(久留島) 第5講: 研究疑問の絞り込みと看護的意義②(久留島) 第6講: 研究論文のクリティーク①(田村) 第7講: 研究論文のクリティーク②(田村) 第8講: 国内の研究論文購読(田村) 第9講: 国外の研究論文購読(田村) 第10講: 文献検討と文献レビュー(田口) 第11講: 研究計画書の重要性(田口) 第12講: 研究計画書作成方法: 概論(田口) 第13講: 研究計画書作成方法: 作成ポイント(田口) 第14講: 看護研究における倫理に関する現状と課題: 概要(豊田) 第15講: 看護研究における倫理に関する現状と課題: 本学の様式にそって(豊田)</p>				
使用 テキスト	山崎 茂明 六本木 淑恵 著 看護研究のための文献検索ガイド 第4版 日本看護協会出版会 山川みやえ、牧本清子著 研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク 日本看護協会出版会				
参考図書	講義時に紹介する				
成績評価 基準	討議50%、レポート50%				
事前事後 学修	【事前】指定されたテキストや文献を読了する 【事後】講義資料やプレゼンテーション内容を整理する				

授業科目	看護研究方法	時間割コード		90202	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	必修	1前
担当教員	菅田 勝也 ・ 滝澤 寛子 ・ 三林 聖司				
授業目的・目標	<p>【目的】 看護研究には多くの方法がある。授業では、研究デザインとしての量的研究と質的研究それぞれの特徴や方法について学ぶとともに、文献やデータのクリティークを通して、自己の研究テーマに関連した研究方法に対する理解を深めることを目標としている。</p> <p>【目標】 1)看護研究における量的方法と質的方法の特徴を対照しながら説明できる。 2)量的方法の考え方を理解し、統計データの解析ができる。 3)質的方法の考え方を理解し、各種の分析手法を説明できる。 4)自分の研究テーマにどの研究方法が適合するかを判断できる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。 ◎</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。 ○</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。 ○</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ○</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 授業では、さまざまな先行研究を参照しながら、量的方法と質的方法のそれぞれについて理解を深めるとともに、両者の違いや対象に応じてどのように二つの方法を使い分ければよいのかについて論じる。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (菅田 勝也/4回 第2講、第3講、第9講、第10講) (三林 聖司/5回 第4講～第8講) (滝澤 寛子/6回 第1講、第11講～第15講)</p> <p>第1講:オリエンテーション: 研究における「方法」の重要性について(滝澤) 第2講:研究の意義と研究方法の概観(菅田) 第3講:量的研究:量的研究方法のデザイン(菅田) 第4講:量的研究:母集団と標本 データの可視化(三林) 第5講:量的研究:要約統計量(三林) 第6回:量的研究:統計的検定(パラメトリック検定とノンパラメトリック検定)(三林) 第7回:量的研究:統計的検定(差の検定、分割表の検定)(三林) 第8回:量的研究:統計的検定(重回帰分析、ロジステック回帰分析)(三林) 第9講:量的研究:尺度法の理論と応用(菅田) 第10回:量的研究:ランダム化比較試験の研究論文のクリティーク(菅田) 第11回:質的研究:質的研究の特徴と理論的基盤(滝澤) 第12講:質的研究:質的研究のプロセスとデータ収集(滝澤) 第13講:質的研究:質的研究における半構造化インタビュー(滝澤) 第14講:質的研究:質的研究のデータ分析の種類と特徴(滝澤) 第15講:まとめ:量的研究と質的研究(滝澤)</p>				
使用テキスト	特に定めない				
参考図書	バーンズ&グローブ『看護研究入門ー評価・統合・エビデンスの生成ー』第7版 エルゼビアジャパン				
成績評価基準	課題提出・討議50%、期末レポート50%				
事前事後学修	<p>【事前】紹介された文献を入手し、読了する。 【事後】提出課題の遂行。</p>				

授業科目	看護倫理特論	時間割コード		90203	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	必修	1前
担当教員	平 英美 ・ 前原 なおみ				
授業目的 ・ 目標	<p>目的:人間の生命の尊厳と権利の尊重についての基本的な考え方、倫理原則、倫理、理論について理解する。</p> <p>学修目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の権利が尊重されねばならない歴史社会的背景を述べることができる。 2. 看護者として必要な倫理的態度について論じることができる。 3. 臨地における倫理的課題に気づくことができる。 4. 臨地における倫理的課題の解決に向けた議論ができる。 				
DPとの 対応	<ol style="list-style-type: none"> 1) 智をいつくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。 2) 人をいつくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。 3) 命をいつくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。 4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。 5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。 6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 				
授業計画	<p>【講義内容】 オムニバス方式(全15回) 第1講～第7講:前原担当、第8講～第15講:平担当</p> <p>第1講 オリエンテーション GW「倫理とは」倫理的課題担当決め 課題レポート「看護倫理」とは(4/9) 第2講 倫理的課題 資料作成(4/16) 第3講 看護師の倫理綱領(2021) 4分割法、医療倫理の4原則、臨床倫理検討シート(4/23) 第4講 倫理的課題①(5/7) 第5講 倫理的課題②(5/14) 第6講 倫理的課題③(5/21) 第7講 倫理的課題④(5/28) 第8講 近代医療と医療倫理①(6/4) 第9講 近代医療と医療倫理②(6/11) 第10講 医療と死①(6/25) 第11講 医療と死②(6/25) 第12講 患者の権利と社会の安全①(7/2) 第13講 患者の権利と社会の安全②(7/9) 第14講 医療倫理の現代的課題①(7/16) 第15講 医療倫理の現代的課題②(7/23)</p>				
使用 テキスト	なし				
参考図書	宮坂道夫『医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ』医学書院、2011年。(平担当)				
成績評価 基準	発表とディスカッション…50%、最終レポート…50%				
事前事後 学修	<p>【事前学修】授業内容に関連する文献検索等の準備をしておく。</p> <p>【事後学修】発表やディスカッションの結果を整理しておく。</p>				

授業科目	看護理論	時間割コード		90204	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	豊田 久美子				
授業目的・目標	<p>【目的】看護理論を概観するとともに、自己の看護実践を振り返り理論との照合を通して、看護理論の実践への活用・研究への応用と開発について学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護現象と看護理論の関係を考察できる。 2. 看護理論について概観できる。 3. 自己の看護実践を振り返り、理論の活用について考察できる。 4. 自己の研究への活用、応用について考察できる。 				
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。 2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。 3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。 4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。 5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。 6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 				◎
授業計画	<p>【授業概要】</p> <p>看護は実践の科学であり、看護理論は日々の細々した看護実践活動を帰納法によって開発・創出されたものである。地域包括ケアの進展に伴い、他職種連携・看看連携が必要になる中、看護の専門性の発揮がいつそう求められており、“看護とは何か”の省察はきわめて重要である。看護理論を概観し、自己の看護実践を振り返り、理論との照合を通して、看護理論の活用・開発、実践・研究での適用について学び、看護の本質であり様々な看護実践に通徹する看護理論について考察する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1講：看護現象と看護理論の省察1 / 事前学習：「最も印象に残っている看護現象、それはなぜか」</p> <p>第2講：看護現象と看護理論の省察2 / 事前学習：「それは、なぜか」に答える理論はあるか」</p> <p>第3講：看護現象と看護理論の省察3 / 事前学習：「看護現象と看護理論の関係」とは</p> <p>第4講：看護の起源と看護学発展と看護理論 / 事前学習：配布資料の通読</p> <p>第5講：看護理論の基本構造1 / 事前学習：配布資料の通読および担当箇所の発表準備</p> <p>第6講：看護理論の基本構造2 / 事前学習：配布資料の通読および担当箇所の発表準備</p> <p>第7講：看護理論の基本構造3 / 事前学習：配布資料の通読および担当箇所の発表準備</p> <p>第8講：看護理論の基本構造4 / 事前学習：配布資料の通読および担当箇所の発表準備</p> <p>第9講：看護理論の基本構造5 / 事前学習：配布資料の通読および担当箇所の発表準備</p> <p>第10～14講：自己の看護実践を振り返り、理論との照合を通して、看護理論の活用・開発、実践・研究への適用についてまとめ発表し、全体で討議する。 / 事前学習：発表準備</p> <p>第15講：看護理論と看護実践および看護研究への活用と限界、開発実践—研究—理論の円環関係と看護研究の重要性 / 事前学習：発表準備</p>				
使用テキスト	使用しない				
参考図書	随時、紹介する				
成績評価基準	各講義の事前学習および発表50%、レポート50%				
事前事後学修	「授業計画に示した内容を事前学習し、授業では発表、ディスカッション、事後学習ではまとめてレポートをする」といった流れで進める。				

授業科目	看護管理論 ※シラバスは変更になる可能性があります。	時間割コード		90205	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後集中
担当教員	任 和子 ・ 他未定				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 地域包括ケアシステムを推進するにあたって、多職種協働連携及びチーム医療における看護管理に関する諸理論や技法を修得する。 看護専門職として社会の期待に応えることができるために、学びを促す組織づくりの諸理論及び技法を修得する。</p> <p>【目標】 1)看護管理の基盤となる理論及び技法について説明できる。 2)多職種連携及びチーム医療における看護の専門性について説明できる。 3)多職種連携及びチーム医療において看護の専門性を具現化する方法について説明できる。 4)学びを促す組織づくりの理論及び技法について説明できる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。 ◎</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ◎</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 地域包括ケアシステムが推進されている中で、看護専門職として社会の期待に応えるために必要な看護管理に関する知識や理論および互いに学び成長できる組織づくりの具体的な技法について学修する。</p> <p>【授業計画】 第1講：ガイダンス 第2講：看護管理の定義と歴史の変遷 第3講：組織論①(組織とは・組織変革・開発) 第4講：組織論②(地域包括ケアシステムにおける多職種連携及びチーム医療) 第5講：看護の質保証と評価 第6講：看護の質改善 第7講：看護専門職の自律性と責務 第8講：リーダーシップ論(メンバーシップを含む) 第9講：組織における意思決定と交渉力(データ活用も含む) 第10講：学びを促す組織づくり①学習のメカニズム・学習モデル 第11講：学びを促す組織づくり②動機づけ理論 第12講：学びを促す組織づくり③学習環境デザイン 第13講：学びを促す組織づくり④具体的技法(ティーチング・コーチング・フィードバック) 第14講：専門職業人としてのキャリア開発 第15講：看護管理における自己の課題の明確化</p>				
使用 テキスト	<p>ダウンロード ・看護業務基準 https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/kijyun/pdf/kijyun2016.pdf ・看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイド https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/guideline/way_of_nursing_service.pdf</p>				
参考図書	<p>みんなの看護管理(南江堂)、看護組織論(ミネルヴァ書房)、シリーズ生命倫理学第14巻看護倫理(丸善)、生命倫理と医療倫理第4版(金芳堂)</p>				
成績評価 基準	<p>出席とディスカッションへの参加度40% 課題の実施と提出:発表20% レポート40%</p>				
事前事後 学修	<p>・ダウンロードしたテキストを読んでおく。 ・レポート課題は、「看護管理における現代の課題」を大きなテーマとして自分の職務やキャリアと関連させながら論じることを予定している。講義前後で、「看護管理における現代の課題」を自分の経験というフィルターを用いて振り返ること。この課題について各自のプレゼンテーションも予定している。</p>				

授業科目	看護政策論	時間割コード		90206	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後集中
担当教員	勝又 浜子 ・ 堀井 とよみ				
授業目的・目標	<p>【目的】 看護政策を提言できる看護職としての能力を修得する。</p> <p>【目標】 1)国・都道府県・市町村の看護政策と策定過程を説明できる。 2)看護政策の課題を挙げるができる。 3)都道府県の健康・医療・福祉政策の策定過程を説明し、看護職の役割を述べるができる。 4)保健・医療・福祉政策の新たな政策課題に対して解決策を述べるができる。 5)解決策を政策として論じることができる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいづくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいづくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいづくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。 ◎</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ○</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 1)国、都道府県、市町村における保健・医療・福祉ニーズに対応する看護政策の在り方とその策定過程を学び、看護の課題を探究する。 2)保健医療福祉政策の決定過程に関わってきた看護職の役割をを理解し、保健医療福祉政策の課題解決方法や政策決定過程を探究する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (勝又 浜子:第1講～第3講 第13講・第14講) (堀井 とよみ:第4講～第12講・第15講) 第1講:我が国における看護制度と看護職に関する法律 第2講:保健師助産師看護師法の変遷とその背景 第3講:我が国の看護政策の決定過程 第4講:看護政策を学ぶ意義 第5講:グループディスカッション (テーマ:自組織における看護問題について) 第6講:政策化・施策化のモデルと理論 第7講:専門職が取り組む政策化・施策化の具体的方法 第8講:専門職が取り組む政策化・施策化の具体的方法(事業提案書の作成) 第9講:グループディスカッション (テーマ:自組織における看護問題解決のための政策化) 第10講:都道府県医療計画策定のプロセスと内容 第11講:地域の保健・医療・福祉政策の課題と政策化 第12講:グループディスカッション (テーマ:地域の保健医療福祉の各計画からみる看護職の役割) 第13講:医療専門職の教育制度と看護師基礎教育制度の課題 第14講:日本看護協会と看護政策 (保健・医療・福祉政策の決定に看護職が果たしてきた役割) 第15講:看護政策論のまとめ、レポート作成</p>				
使用テキスト	看護六法 最新版、講師作成資料				
参考図書	適宜指定する				
成績評価基準	レポート80% ディスカッション参加20%				
事前事後学修	<p>1)居住している都道府県のホームページから、「看護に関する独自政策及び最新の看護職員需給計画」をダウンロードし、自分の考え方をまとめる。 2)公益社団法人日本看護協会ホームページから「看護基礎教育4年制」をダウンロードして、関連する情報を必ず読み込み自分の考え方をまとめる。</p>				

授業科目	医療コミュニケーション特論	時間割コード		90209	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	平 英美 ・ 出石 万希子				
授業目的 目標	<p>【目的】 近年、臨床において医療コミュニケーションの重要性が認識されるようになった背景には、患者の権利を尊重した患者中心の医療の進展がある。とくに看護においては、コミュニケーション自体が看護技術の一部と見なされ関心が高まっている。本授業は、このような医療者-患者関係の変化に対応しつつ、看護師が臨床現場において患者との良好なコミュニケーションを遂行するためにはどのようにすればよいのかを理論的かつ実践的に探究することを目的としている。</p> <p>【目標】 1)医療においてコミュニケーションが重視されるようになった歴史社会的背景についての認識と理解を深める。 2)コミュニケーションの分析ツールであるRIASと会話分析を使いこなすことができる。 3)他のコミュニケーションと比較した看護コミュニケーションの特徴について自分の考えを述べるができる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。 ◎</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。 ○</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 まず、わが国における患者中心の医療の展開について、とりわけその中心概念であるインフォームド Consentの実態を、看護記録開示やがん告知と看護師の関わりなどの事例を通して具体的に検討する。次に、コミュニケーションを分析する代表的な理論・分析方法に習熟するために、量的方法ではRIASを、質的方法では会話分析を主に取りあげる。本授業では、SPの利用や簡単なフィールドリサーチを行うことで院生自身が患者とのコミュニケーションを自己分析するワークを取り入れている。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (平 英美/10回 第1講、第2講 第8～第12講、第13講、第15講) (出石 万希子/5回 第3講～第7講、第13講、第15講) 第1講:オリエンテーション:医療におけるコミュニケーションの研究の重要性:背景としての患者中心の医療の進展について 第2講:コミュニケーションデータ作成方法とトランスクリプトの方法 第3講:RIASを用いた医療コミュニケーションの量的分析について:RIASの特徴とコーディングの考え方 第4講:ワーク①:データをコーディングしてみる 第5講:ワーク②:コーディング後の処理の仕方について 統計の利用法 第6講:RIASから見た看護コミュニケーションの特徴:医師のコミュニケーションあるいは医療以外のコミュニケーションと比較して 第7講:医療コミュニケーションの会話分析 第8講:コミュニケーション研究の理論的動向:談話分析(Discourse Analysis)と会話分析(Conversation Analysis)の違いについて 第9講:会話分析の基本概念 第10講:ワーク③:会話分析を試みる その1 第11講:ワーク④:会話分析を試みる その2 第12講:ワーク⑤:会話分析を試みる その3 第13講:模擬患者を使ったロールプレイ 第14講:ワーク⑥:各自のデータ解析の指導 第15講:まとめ プレゼンテーション 各自の自己分析を発表する。</p>				
使用 テキスト	なし				
参考図書	<p>① 石崎雅人・野呂幾久子監修『これからの医療コミュニケーションに向けて』篠原出版新社 ② 阿部恵子・石川ひろの・野呂幾久子『医療コミュニケーション分析の方法』三恵社 ③ その他、適宜紹介する。</p>				
成績評価 基準	提出物および平常点50% レポート試験50%				
事前事後 学修	<p>【事前】事前にデータ整え、分析する。 【事後】レポート等の提出物作製の際に、医療コミュニケーションについての文献を読む。</p>				

授業科目	看護マネジメント特論	時間割コード		90302	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	菅田 勝也				
授業目的 目標	<p>【目的】 医療の社会経済的枠組みを定める社会保障制度に関する知識を深めるとともに、看護サービスの質を保証する看護マネジメントの方法を学修する。</p> <p>【目標】 1) 人口構造と疾病構造の変化について説明できる。 2) 社会保障の給付と負担及び社会保障制度改革について説明できる。 3) 看護マネジメントに係る種々の方法や技術とその活用について説明できる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいづくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいづくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいづくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				◎
授業計画	<p>【授業概要】 看護マネジメントの背景にある人口構造や疾病構造の変化、及び社会保障制度とその改革の動向、並びに看護マネジメントに係る種々の方法や技術とその活用について学修する。</p> <p>【授業計画】 第1講：人口構造と疾病構造の推移 第2講：社会保障の構造と機能 第3講：国民医療費の動向 第4講：看護に係る診療報酬 第5講：医療提供体制の改革 第6講：サービス・マネジメントの概念と方法 第7講：サービス・マネジメントに関する研究：文献検討 第8講：クオリティ・マネジメントの概念と方法 第9講：クオリティ・マネジメントに関する研究：文献検討 第10講：アウトカム・マネジメントの概念と方法 第11講：アウトカム・マネジメントに関する研究：文献検討 第12講：セイフティ・マネジメントの概念と方法 第13講：セイフティ・マネジメントに関する研究：文献検討 第14講：医療経済評価 第15講：情報通信技術</p>				
使用 テキスト	特に指定しない				
参考図書	<p>Sullivan,E.: Effective Leadership and Management in Nursing (9th ed.). Prentice Hall. (看護管理について網羅的に編集されているので、特に推奨する) 菅田勝也(編):看護管理に活かすベンチマーキングー看護サービスの質改善のために。東京、中山書店。 永井良三監修。数間恵子、菅田勝也、小出大介(編):看護と情報科学。東京、杏林図書。</p>				
成績評価 基準	発表40% 討論30% レポート30%				
事前事後 学修	講義時に指示する				

授業科目	看護教育学特論	時間割コード		90303	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	久留島 実姫				
授業目的 目標	<p>【目的】 看護基礎教育・継続教育に必要な看護教育学の理論や概念、方法論について学修する。 また、看護職者として身を置く環境において質の高い看護教育を実現するための具体的な教育方法を探求する。</p> <p>【目標】 1)看護教育学の基盤となる理論や概念、方法論について述べるができる。 2)看護基礎教育、継続教育に関する課題を明確化できる。 3)教育方法論を用いて教育実践計画を立案できる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				◎ ○
授業計画	<p>【授業概要】 これからの社会に求められる看護を提供できる看護師の育成に必要な基礎看護教育、継続教育について、教育理論、方法論などを基に多角的に検討する。さらに、看護教育の実践の要となる授業または研修案の設計を行う。授業は、各自の事前課題などを基に自由討議を行う。</p> <p>【授業計画】 第1講：ガイダンス、看護教育学とは 第2講：看護教育制度と教育課程 第3講：継続教育 第4講：教育理論 第5講：学習理論 第6講：教育方法論 第7講：教育目標と評価 第8講：看護基礎教育・継続教育の課題 第9講～14講：授業・研修の設計 第15講：授業、研修設計案の発表 まとめ</p>				
使用 テキスト	特に指定しない				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価 基準	討議への参加度(20%)、授業または研修設計案(40%)、レポート(40%)				
事前事後 学修	講義時に指示する				

授業科目	クリティカルケア特論	時間割コード		90304	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2 (30)	選択	1前
担当教員	田口 豊恵				
授業目的 目標	<p>【目的】 重篤な疾患や外傷、生体侵襲の大きい手術などによって生命危機状態にある重症患者とその家族に対し、生命の維持、生命への寄り添いと尊厳を護り、強みを引き出すための智を探究する。クリティカルケア看護の基盤となる概念、理論、睡眠学や時間生物学に基づくサーカディアンリズムの調整、生体侵襲学、危機理論、フィジカルアセスメントを通して、全人的かつ学際的な視点からも学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命維持に直接的なかかわりをもつ専門知識について説明できる。 2. 生命維持に直接的なかかわりをもつ看護技術について実践できる。 3. 患者の生死にかかわる問題に対応できる高い倫理観を持つ必要性について説明できる。 4. 事例を通して、生命危機状態にある患者や家族への看護について考究できる。 				
DPとの 対応	<ol style="list-style-type: none"> 1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。 2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。 3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。 4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。 5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。 6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 				◎
授業計画	<p>【授業概要】 生命危機状態にある重症患者とその家族に対し、生命の維持、生命への寄り添いと尊厳を護り、強みを引き出すための智について講義や演習、事例を通して探究する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1講：講義計画ガイダンス クリティカルケア看護とは 第2講：患者の特性と看護師のコンピテンシー：AACN synergy Model(相乗作用モデル) 第3講：チーム医療とコミュニケーション 第4講：クリティカルな状態にある患者が抱える倫理的課題 第5講：クリティカルな状態にある家族への看護：代理意思決定 第6講：モニタリングとアセスメント 第7講：クリティカルな状態にある患者の呼吸・循環管理と看護 第8講：クリティカルな状態にある患者の栄養管理と看護 第9講：クリティカルな状態にある患者への日常生活援助 第10講：クリティカルな状態にある患者のサーカディアンリズム調整を目的とした看護 第11講：二次救命処置(ALS)と看護 第12講：課題発表①(第2～10講から1つ選出) 第13講：地域包括ケアシステムにおけるクリティカルケア看護の役割と重要性 第14講：課題発表②(第13講) 第15講：まとめ</p>				
使用 テキスト	特に使用しない				
参考図書	講義時に紹介する				
成績評価 基準	プレゼンテーション40% レポート課題60%				
事前事後 学修	講義時に指示する				

授業科目	臨床ナラティブ特論	時間割コード		90305	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	中川 晶				
授業目的・目標	ナラティブ・アプローチとはどのような考え方があるのか概観できるようになること。 教育現場や医療現場でナラティブ・アプローチを使えるようになること。 ナラティブの技法として、ナラティブ・クエショニングが使えるようになること。				
DPとの対応	1) 智をいづくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎
	2) 人をいづくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				◎
	3) 命をいづくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				◎
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				◎
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	各回のテーマ 第1回 : ナラティブとは何か 第2回 : ナラティブと帰属理論 第3回 : ナラティブと社会構築主義 第4回 : ストレスの背景を考える 第5回 : ストレスの正体1～精神医学の視座から～ 第6回 : ストレスの正体2～心理学の視座から～ 第7回 : ストレスの正体3～文化人類学の視座から～ 第8回 : ストレスの正体4～進化生物学の視座から～ 第9回 : ナラティブと人格理論 第10回 : ナラティブと発達障害 第11回 : ナラティブとうつ病 第12回 : ナラティブと医療 第13回 : ナラティブと医学 第14回 : 病いの語り 第15回 : 看護に生かすナラティブ・アプローチ				
使用テキスト	なし				
参考図書	講義と演習で学ぶ保健医療行動科学(日本保健医療行動科学会)				
成績評価基準	出席とレポート				
事前事後学修	ナラティブ関係の本を読む。				

授業科目	エンドオブライフケア特論	時間割コード		90307	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	田村葉子				
授業目的・目標	<p>【目的】 エンドオブライフ(以下 End of life; EOL)ケア、EOLケアについての歴史の変遷および基盤となる理論や概念について学修する。また、EOLケアが患者、家族や看護師に及ぶ影響や課題について考究し、高度実践看護師としてのケアのあり方について探究する。</p> <p>【目標】 1)EOLの概念、歴史について説明できる。 2)クリティカルケア領域におけるEOLを取り巻く状況の変化や現在の課題について説明することができる。 3)クリティカルケア領域におけるEOLケアが必要な患者の身体症状についてアセスメント及び症状マネジメントに関する知識を習得できる。 4)クリティカルケア領域におけるEOLケアでの倫理的問題について述べることができる。 5)クリティカルケア領域におけるEOLケアを提供する看護師に求められる基本的態度について理解できる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいつくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいつくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいつくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				◎ ◎ ○ ○
授業計画	<p>【授業概要】 高齢多死社会の中で、まさに今、人生を終えようとする患者とその家族に必要なEOLケアについて、EOLケアの基盤となる理論や概念を講義、演習を通して学修する。さらに、EOLケアについての先行研究を基に、現在の課題について探究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：ガイダンス EOLとは 第2講：EOLケアの歴史の変遷 (第3～15講については、クリティカルケア領域におけるEOLケアについて学修する) 第3講：EOLケアの基盤となる理論や概念;危機理論 等 第4講：EOLを取り巻く状況や課題について;DNAR ACP 代理意思決定支援 等 第5講：EOLにある患者の疼痛マネジメント 第6講：EOLにある患者の症状マネジメント 第7講：EOLケアにおける倫理的問題 第8講：EOLケアに関連する研究:文献検討① 第9講：EOLにある患者・家族とのコミュニケーション 第10講：EOLケアに関連する研究:文献検討② 第11講：EOLにおける患者・家族の悲嘆 第12講：EOLケアにおける看護師の苦悩;モラルディストレス 第13講：EOLケアにおける看取り 第14講：EOLケアに関連する研究:文献検討③ 第15講：EOLケアを提供する看護師に求められる態度、まとめ</p>				
使用テキスト	特になし				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	事前事後学修・プレゼン(50%)、レポート(50%)				
事前事後学修	講義内で指示する				

授業科目	看護リフレクション特論	時間割コード		90308	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	鯨坂 由紀				
授業目的・目標	<p>授業目的: 自身の看護実践・看護教育実践を意味づけるリフレクションは、看護専門職者自身の成長と質の高い看護・教育実践につながる思考過程である。また、看護学生が看護の考え方を深め、実践能力を向上させていくためには、看護師・看護教員が学生の看護実践場면을教材化する力を向上させることが必要であるとされている。本授業は、看護におけるリフレクションと教材化について、理論的・実践的に探究することを目的とする。</p> <p>目標: 1)リフレクションに関連する理論や概念を説明できる 2)看護のリフレクションに関する研究動向を探究できる 3)自身の看護実践あるいは看護教育実践をリフレクションし、今後の看護を考究できる 4)教材化について学修し、学生の看護実践場면을教材化する力を培う</p>				
DPとの対応	1) 智をいっくむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。	◎			
	2) 人をいっくむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。	○			
	3) 命をいっくむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。	○			
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。	◎			
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 リフレクションの歴史の変遷と関連する理論や概念について学修する。また、看護におけるリフレクションの先行研究を検討する。そして、理論や文献を活用して、それぞれの看護実践・看護教育実践をリフレクションし、プレゼンテーション・ディスカッションを通して今後の看護について考究する。さらに、教材化について学修し、学生の看護実践場面(事例)を教材化し、学生自身が経験の意味を理解できるようリフレクションを促す支援方法を考案・実施しディスカッションする。</p> <p>【授業計画】 第1講: ガイダンス 第2～3講: リフレクションの歴史の変遷、関連する理論や概念 第4～6講: 看護実践のリフレクションに関する文献検討 第7～8講: 看護教育実践のリフレクションに関する文献検討 第9～10講: 自身の看護実践・看護教育実践について理論・文献を用いてリフレクションし考察する 第11講: 教材化 第12～14講: 学生の看護実践場面(事例)を教材化し、学生自身が経験の意味を理解できるようリフレクションを促す方法を考案・実施しディスカッションする 第15講: まとめ</p>				
使用テキスト	特に使用しない				
参考図書	講義時に紹介する				
成績評価基準	課題・討議・プレゼンテーション50%、レポート50%				
事前事後学修	講義時にお知らせします				

授業科目	がん患者・家族看護特論	時間割コード		90309								
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次							
		講義	2(30)	選択	1後							
担当教員	中森美季											
授業目的・目標	<p>【目的】 がん患者およびその家族に提供される医療や看護についての歴史的変遷および基盤となる概念、理論について学修する。また、がんの療養プロセスにおける患者およびその家族への様々な影響や直面する課題について、全人的な視点で捉え考査し、がん患者およびその家族へのケアのあり方について探求する。</p> <p>【目標】 1)がん医療と看護の歴史について説明できる 2)がん患者とその家族を取り巻く状況の変化や現状の課題について説明できる。 3)がん療養プロセスに応じたがん患者とその家族に対する看護に関連する理論の概念について説明できる。 4)がん医療と看護における倫理的問題について述べるができる。 5)事例を通して、がん患者とその家族に対する看護について考究できる。</p>											
DPとの対応	1) 智をいづくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。	◎	2) 人をいづくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。	◎	3) 命をいづくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。	○	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。	○	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。		6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。	
授業計画	<p>【授業概要】 がんと診断されてから看とりの時期、さらには、看とり後も含め、がん患者およびその家族が体験する様々な状況や諸問題に対する看護について、講義や演習、事例を通して探求する。</p> <p>【授業計画】 第1講：ガイダンス がん看護とは 第2講：日本におけるがん医療と看護の歴史的変遷 第3講：がん療養プロセスと看護 第4講：がん患者およびその家族の特徴と全人的理解①：診断から治療期 第5講：診断期から治療期にあるがん患者およびその家族に関する文献検討 第6講：がんの診断から治療期における意思決定支援 第7講：がん患者およびその家族の特徴と全人的理解②：がんサバイバー 第8講：がんサバイバーおよびその家族に関する文献検討 第9講：がん患者およびその家族の特徴と全人的理解③：終末期 第10講：終末期にあるがん患者およびその家族に関する文献検討 第11講：がん患者とその家族に関わる倫理的問題 第12講：がん患者とその家族に関わる諸理論①：オレム看護論 第13講：がん患者とその家族に関わる諸理論②：危機理論/悲嘆理論 第14講：がん患者とその家族に関する諸理論を活用した事例検討 第15講：まとめ</p>											
使用テキスト	特になし											
参考図書	適宜紹介する											
成績評価基準	事前事後学修・プレゼンテーション(50%)、レポート(50%)											
事前事後学修	講義時に指示する											

授業科目	看護の智探究課題演習	時間割コード		90306	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	2(60)	必修・選択	1後
担当教員	菅田 勝也・田口 豊恵・◎久留島 美姫・吉田 えり・平 英美・中川 晶・ 田村 葉子・鯨坂 由紀・中森 美季				
授業目的・ 目標	<p>【目的】 臨床および教育現場における看護の智探究に関する課題と展望を明確にするとともに、研究過程の演習を通して、基本的な研究展開方法を習得し研究計画を立案する能力を養う。</p> <p>【目標】 1) 演習を通して、多角的な意見や助言、指導を得て、自己の研究疑問から研究課題を明確にし、研究計画の立案ができる。 2) ディスカッションおよび発表会で得られた意見、助言、指導を自身の研究に有効に活用できる。 3) 根拠に基づく実施可能な研究計画を立案できる。</p>				
DPとの 対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。	◎			
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。	○			
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。	○			
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。	○			
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 看護の智探究領域専攻の学生を支援する領域別演習であり、一部、地域生活支援探究領域の担当教員および専攻学生との共同による対話、発表、討論形式で進める。 学生の問題意識に基づき、国内外の論文のクリティーク、研究疑問の絞込み、研究計画を立案する基礎能力を養うことを目的とする。 (全30回)</p> <p>【授業計画】 第1～8講：課題設定、文献レビュー、研究計画の検討 第9～11講：研究課題発表 第12～15講：研究計画の検討 第16～18講：研究計画中間発表会 第19～27講：研究計画書作成 第28～30講：まとめ、研究計画概要発表</p>				
使用 テキスト	特に定めない				
参考図書	講義時に紹介する				
成績評価 基準	発表資料・プレゼンテーション：50%(研究課題発表会 15%・研究計画中間発表会 15%・研究計画発表会 20%、 ディスカッション：30%、事前・事後学修：20%				
事前事後 学修	研究過程を通して、主体的で能動的な学修参加を期待します。				

授業科目	地域生活支援探究総論	時間割コード		90401	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	井上 深幸 ・ 滝澤 寛子 ・ 磯邊 厚子 ・ 三林 聖司				
授業目的 目標	<p>授業の目的: あらゆる健康段階の人々が、地域でQOLの高い生活を維持できるような支援のあり方について、発達段階および精神保健医療分野の課題などから考究する能力を培う。</p> <p>授業目標: 1) 地域で生活する人の多様な健康生活の課題を説明できる。 2) 課題解決と看護職の役割、あり方について述べるができる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいづくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいづくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいづくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				◎ ○ ○ ○
授業計画	<p>【授業概要】 地域で生活する人々の現代社会における多様な健康生活の課題と、それに対する支援について考究する。さらに、地域包括ケアシステムの進展の中で、地域生活支援探究領域の幅広い視点から自己の問題意識を整理し、明確化していく機会とする。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(井上 深幸/3回 第1講～第3講) 第1講: 地域で生活する人々へのセルフマネジメント支援の必要性 第2講: デイジーズマネジメントとケアマネジメントの推進 第3講: 地域包括ケア時代の継続看護</p> <p>(三林聖司/4回 第4講～第7講) 第4講 幼児期から青年期におけるこころの健康問題 第5講 成人期におけるこころの健康問題 第6講 青年期におけるこころの健康問題 第7講 老年期におけるこころの健康問題</p> <p>(磯邊厚子/4回 第8講～第11講) 第8講: 地域包括ケア時代の患者の理解 第9講: いのち・暮らし・こころ・人生を視る 第10講: 地域包括ケア時代の看護職の果たす役割 第11講: いのち・生活・尊厳を護る実践的アプローチ</p> <p>(滝澤 寛子/4回 第12講～第15講) 第12講: 地域で生活する人々の健康をまもるための政策の変遷 第13講: ヘルスプロモーションの理念と健康の社会的決定要因 第14講: 地域包括ケアシステムの構築と公衆衛生看護活動 第15講: 地域で生活する人々の健康をまもるための看護職の果たす役割</p>				
使用 テキスト	特に指定しない				
参考図書	適宜紹介する。				
成績評価 基準	課題・討議50%、レポート50%				
事前事後 学修	事前に提示された資料や文献を読んでから授業にのぞむこと。 地域生活支援に関する課題及びその解決に向けての知見を深めること。				

授業科目	精神地域生活支援特論	時間割コード		90402	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	三林聖司				
授業目的・目標	<p>【目的】 精神科病院や地域で生活している精神障害者やその家族を取り巻く状況、関係する法律、制度、諸課題を理解し必要と考えられる地域移行支援および地域生活支援を探求する。</p> <p>【目標】 1) わが国と諸外国の精神障害者の現状と課題について理解することができる。 2) 精神障害者の地域移行支援と地域生活支援の現状と課題を理解することができる。 3) 精神障害者の現状での地域移行支援と地域生活支援の課題を解決する方向性について考察することができる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいつくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいつくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいつくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 精神医療が入院治療から地域での治療にシフトする中で、支援内容も疾患の完治からリカバリーへと変化してきた。その変化の中で様々な制度が整備されてきたが、入院中の精神障害者は多く、地域で生活する上での課題も少なくはない。そこで本特論では、精神科病院や地域で生活している精神障害者やその家族を取り巻く状況、関係する法律、諸制度を多角的に理解し、その人が抱えている課題について考察する。また病院や地域での生活において、精神障害者やその家族がどのような思いで生活しどのような生活や生き方を望んでいるのかを理解する。その上で明確になった課題に対して、当事者や家族の「今の生活」や「今後の生活」への思いをふまえ看護師としてできる支援の方向性を探求する。</p> <p>【授業計画】 第1講：精神の「障害」とは何か、それを生み出す、社会・心理、生物学要因の理解 第2講：わが国および諸外国の精神保健福祉の変遷と現状 第3講：精神障害者支援に関連する法律の変遷 第4講：精神障害者支援に関連する法律(精神保健福祉法・障害者総合支援法) 第5講：精神科病院に入院中の精神障害者の生活と課題 第6講：地域で生活する精神障害者と家族の生活と課題 第7講：精神障害者と家族の「今の生活」「今後の生活」への思いを理解する 第8講：地域移行支援の現状と課題 第9講：地域移行支援の現状と課題を踏まえた支援内容の検討 第10講：わが国の精神障害者に対する地域移行支援に関するグループワーク 第11講：地域生活支援の現状と課題 第12講：地域生活支援の現状と課題を踏まえた支援内容の検討 第13講：わが国の精神障害者に対する地域生活支援に関するグループワーク 第14講：精神障害者に対する地域移行支援及び地域生活支援に関する発表・討論 第15講：全講義のまとめ</p>				
使用テキスト	資料を配布する。				
参考図書	適時、配布および紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーションの内容50% 課題レポート50%				
事前事後学修	事前に配布する資料を読み込んでおいて下さい。その資料をもとに討論します。				

授業科目	リプロダクティブヘルス特論 ※シラバスは変更になる可能性があります	時間割コード		必修・選択	開講年次							
		授業形態	単位数(時間数)									
		講義	2(30)	選択	1前							
担当教員	未定											
授業目的・目標	<p>授業の目的: 地域で生活する人々のリプロダクティブヘルス・ライツ(Reproductive Health / Rights:RH/R)について、当事者やパートナーのみならず、その子どもや家族へおよび影響や課題をも多角的に把握し、高度実践看護師としての支援のあり方を探究する。</p> <p>授業目標: 1) RH/Rに関する国内外の歴史的・社会的背景を多角的に説明できる。 2) わが国のRH/R関連の政策や支援制度を国際的文脈の中で説明できる。 3) RH/Rに関わる倫理的課題について述べるができる。 4) 少子化が進むわが国の現状を踏まえ、妊娠や出産、子育て、子どもへの健全な小児期の保証(福祉)や家族のあり方の多様性などに関する諸問題について説明できる。 5) 地域での高度実践者として当事者やパートナー・子ども・家族への支援について説明できる。</p>											
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。	◎	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。	○	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。	○	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。		5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。	○	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。	
授業計画	<p>【授業概要】 リプロダクティブヘルス・ライツは、極めて個人的な要素を持ちつつも国家の経済や発展とも関連し、生物学的に規定されながらも社会的影響を大きく受けるなど、多彩な側面をもつトピックである。特に少子化が進むわが国では、妊娠や出産、子育てのみならず、様々な状況の中で生まれてくる子どもの福祉や家族の在り方の多様性への関心も高まっている。本授業では、わが国のこれらのRH/Rに関する現状や課題を諸外国の事例も踏まえて考察していく。</p> <p>第1講:リプロダクティブヘルス・ライツの概念と歴史の変遷 第2講:セクシュアルヘルスと性的多様性 第3講:プレコンプションヘルス(妊娠前の健康)と課題 第4講:望まない妊娠および子どもの福祉をめぐる現状と課題 第5講:性行為感染症をとりまく現状と課題 第6講:妊娠・出産を取り巻く現状と課題 第7講:子育てをめぐる家族の現状と課題 第8講:乳幼児期の子どもの健康生活と課題 第9講:学童期の子どもの健康生活と課題 第10講:医療的ケア児等とその家族に対する支援の現状と課題 第11講:不妊および生殖補助医療の現状と課題 第12講:家族の在り方の多様性とその理解 第13講:課題の発表および討論 第14講:課題の発表および討論 第15講:まとめ</p>											
使用テキスト	特に指定しない。											
参考図書	適宜紹介する。											
成績評価基準	授業への参加度30% 課題および討論 30% レポート40%											
事前事後学修	事前:提示された文献を読んでから授業にのぞむこと。 事後:授業で提示された課題を行う。また、授業内容と関連したトピックについてのニュースや資料などを積極的に読み、社会的文脈の中で問題をとらえること。											

授業科目	成人地域生活支援特論 ※シラバスは変更になる可能性があります	時間割コード		90404	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	未定				
授業目的・目標	<p>【目的】 慢性の病をもって生きる人とその家族の療養上の課題について理論や概念を用いて学修し、諸理論の活用について検討する。</p> <p>【目標】 1)慢性の病をもって生きる人とその家族の療養上の課題について理解することができる。 2)慢性の病をもって生きる人とその家族の理解や看護を考究するために必要な理論や概念について理解することができる。 3)諸理論や概念の活用について自身の実践事例と結び付けて活用することができる。 4)慢性の病をもって生きる人とその家族が療養行動の維持・継続していく上で必要なセルフケアについて考究することができる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				○
授業計画	<p>【授業概要】 文献や先行研究を読み解き、プレゼンテーション、ディスカッションを通して主体的に学びを深める。実践事例を通して慢性の病をもって生きる人とその家族の療養上の課題を理解し、明らかになった課題について看護援助を探究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：成人期の健康課題および慢性期とは 第2講：慢性期における心理社会的側面の特徴について 第3講：事例の振り返りを通して、理解を深める 第4講：慢性の病をもって生きる人とその家族の理解①：「病みの軌跡理論」を通して病気をもって生きること・病気の管理について学修を深める 第5講：慢性の病をもって生きる人とその家族の理解②：「病みの軌跡理論」の実践への活用について考究 第6講：慢性の病をもって生きる人とその家族を理解するための諸理論①：セルフケア 第7講：慢性の病をもって生きる人とその家族を理解するための諸理論②：障害の受容過程 第8講：慢性の病をもって生きる人とその家族を理解するための諸理論③：ストレス・コーピング 第9-11講：実践事例の検討① ・理論などを用いた実践事例の考察と課題の明確化 ・看護援助についてディスカッション 第12-14講：実践事例の検討② ・理論などを用いた実践事例の考察と課題の明確化 ・看護援助についてディスカッション 第15講：慢性の病をもって生きる人とその家族が療養行動の維持・継続していく上で必要なセルフケアについて、学びの報告とまとめ</p>				
使用テキスト	特になし				
参考図書	適宜、配布および紹介する				
成績評価基準	プレゼンテーションの内容50% 授業参画(授業への参加態度、事前準備状況)50%				
事前事後学修	事前に提示・配布する資料を読み込んで授業に参加してください。新たな気付きや疑問点については、次回の授業までに探求し、説明できるように学修を深めておいてください。				

授業科目	高齢者地域生活支援特論	時間割コード		90405	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	井上 深幸				
授業目的 目標	<p>【目的】 高齢者の地域生活支援は幅広く、保健・医療・福祉の総合ケアとして進展していることを踏まえ、高齢者の支援のための考え方を教授し、高齢者地域生活支援及び高齢者看護実践のあり方と課題解決の方向性について考究する能力を培う。</p> <p>【目標】 1) 高齢者ケア分野において効果的な支援方法を選択するためのベストエビデンスを導き出すことができる。 2) 高齢者地域生活支援に関わる諸理論に関連した研究動向について探究できる。 3) 高齢者地域生活支援における課題解決の方向性について考究できる。</p>				
DPとの 対応	1) 智をいつくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。	◎			
	2) 人をいつくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。	○			
	3) 命をいつくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。	○			
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。	◎			
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 高齢者ケア分野において効果的な支援方法を選択するためのベストエビデンスを導き出す方法について修得する。また、高齢者地域生活支援の考え方としての諸理論について理解を深め、高齢者が疾患や障害をもちながら地域で生を全うするための援助方法について考究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：高齢者支援、高齢者看護に関わる理論、モデル、視座 第2講：高齢者看護に関わる環境要因と生態学理論 第3講：高齢者看護に関わる文化ケアの探究 第4講：高齢者看護に関わる文化ケアの探究 第5講：高齢者看護に関わる文化ケアの探究 第6講：高齢者看護に関わる文化ケアの探究 第7講：高齢者看護に関わる文化ケアの探究 第8講：高齢者看護に関わる状況特定理論 第9講：高齢者看護に関わる状況特定理論 第10講：高齢者看護に関わる状況特定理論 第11講：高齢者看護に関わる状況特定理論 第12講：高齢者看護に関わるシステムティックレビュー 第13講：高齢者看護に関わるシステムティックレビュー 第14講：高齢者看護に関わるシステムティックレビュー 第15講：高齢者看護に関わるシステムティックレビュー</p>				
使用 テキスト	指定なし				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価 基準	レポート50%[目標1)30% 目標3)20%] 発表50%[目標2)]				
事前事後 学修	各講義毎の事前事後学修は別紙でお知らせします。				

授業科目	在宅看護特論	時間割コード		90408	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	磯邊厚子				
授業目的・目標	<p>【授業目的】地域包括ケアシステムの中で在宅看護の役割、機能を理解し、在宅で生活する人とその家族の療養生活のQOL向上をめざした在宅看護のあり方について探求できる。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養する人と家族の健康課題について理解できる。 2. 住み慣れた地域で尊厳をもって最後まで暮らし続けることのできる地域包括ケアシステムを考察する。対象者がその人らしく、地域で暮らすことができるよう、在宅療養の意義および看護の責務、今後の展望について探求できる。 3. 在宅療養者およびその家族の生活を支える法制度について理解し、在宅ケアシステムの現状と課題について考察できる。 				
DPとの対応	1) 智をいつくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。	○			
	2) 人をいつくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。	○			
	3) 命をいつくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。	○			
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。	○			
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 在宅で療養する人とその家族の多様な療養生活を理解し、その生活を支援するための理論、概念を教授する。地域包括ケアシステムの構築が進む中での在宅療養の意義および看護の責務、今後の課題について探求する。</p> <p>【授業計画】 第1講：地域包括ケアシステムの社会的背景と地域共生社会 第2講：地域包括ケアシステムの概念－医療の視点、看護の視点、生活支援の視点 第3講：地域包括ケアにおける多職種協働 第4講：在宅療養を支える法、制度 第5講：在宅看護における倫理的課題① 第6講：在宅看護における倫理的課題② 第7講：在宅看護における地域および人々の暮らしの理解 第8講：暮らしの中での地域・在宅看護の実践 第9講：在宅看護における家族支援① 第10講：在宅看護における家族支援② 第11講：在宅看護に関する理論①－家族看護 第12講：在宅看護に関する理論②－終末期看護 第13講：諸外国における在宅看護 第14講：在宅看護に関する研究① 第15講：在宅看護に関する研究②</p>				
使用テキスト	使用せず				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	レポート70%、事例検討、授業への参加状況30%				
事前事後学修	事前に『地域・在宅看護の基盤』の第2章を読む、事後は授業進行に沿って、適宜課題を行う				

授業科目	公衆衛生看護実践特論	時間割コード		90406	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	滝澤 寛子 ・ 石井 敦子 ・ 河田 志帆				
授業目的・目標	<p>【目的】 公衆衛生看護の諸理論を看護実践に活かし、科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動が展開できる保健師としての能力を修得する。</p> <p>【目標】 1)公衆衛生看護の基盤となる諸理論を説明できる。 2)科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動の実際を探究できる。 3)公衆衛生看護活動における政策形成プロセスの意義について考察できる。 4)公衆衛生看護活動や実習の展開中に芽生えた関心や問題を探査する。</p>				
DPとの対応	1)智をいつくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。	◎			
	2)人をいつくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。	○			
	3)命をいつくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。	○			
	4)臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				
	5)病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。	○			
	6)地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動が展開できる保健師としての能力を修得する。具体的には、公衆衛生看護の対象である個人、家族、集団の健康の保持増進と地域のヘルスプロモーションを推進する公衆衛生看護の基盤となる諸理論について概説する。科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動の実際や、公衆衛生看護活動や実習の展開中に芽生えた関心や問題を探査する。公衆衛生看護活動における政策形成プロセスの意義について考究する。</p> <p>【授業計画】(オムニバス方式/全15回) (河田 志帆/5回 第1講～5講) 第1講:公衆衛生看護領域における個人・家族に関する研究と理論 第2講:公衆衛生看護領域における個人・家族に関する支援の実際 第3講:公衆衛生看護領域におけるグループ支援に関する研究と理論 第4講:公衆衛生看護領域におけるグループ支援に関する支援の実際 第5講:まとめ (滝澤 寛子/5回 第6講～10講) 第6講:公衆衛生看護領域におけるコミュニティの組織化に関する研究と理論 第7講:公衆衛生看護領域におけるコミュニティの組織化に関する支援の実際 第8講:公衆衛生看護領域におけるソーシャルキャピタルと地域づくりに関する研究と理論 第9講:公衆衛生看護領域におけるソーシャルキャピタルと地域づくりに関する支援の実際 第10講:まとめ (石井 敦子/5回 第11講～15講) 第11講:公衆衛生看護領域におけるヘルスケアシステムづくりに関する研究と理論 第12講:公衆衛生看護領域におけるヘルスケアシステムづくりの実際 第13講:公衆衛生看護領域における政策提言の意義と理論 第14講:政策提言の実際 第15講:まとめ</p>				
使用テキスト	適宜紹介する				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	レポート 80% 事例検討・授業への参加状況20%				
事前事後学修	各回のテーマに関連する文献を読み、理論と活動の実際について理解を深めること				

授業科目	地域生活支援探究課題演習	時間割コード		90407	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	2(60)	選択	1後
担当教員	井上 深幸 ・ 滝澤 寛子 ・ 三林 聖司 ・ 石井 敦子 ・ 河田 志帆 ・ 前原 なおみ ・ 磯邊 厚子				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 地域包括ケアシステムの進展の中で、地域生活支援探究に関する課題と展望を明確にするとともに、研究過程の演習を通して、基本的な研究展開方法を習得し、自己の研究に生かすことができる。</p> <p>【目標】 1)演習を通して、多角的な意見や助言、指導を得て、自己の研究疑問から研究課題を明確にし、研究計画の立案ができる。 2)ディスカッションおよび発表会で得られた意見、助言、指導を自身の研究に有効に活用できる。 3)根拠に基づく実施可能な研究計画を立案できる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				◎ ◎ ○ ◎
授業計画	<p>【授業概要】 地域生活支援探究領域専攻の学生を支援する領域別演習であり、本領域を担当する全教員、同領域専攻の全学生の参加のみならず、一部、看護の智探究領域の担当教員および専攻学生との共同による対話、発表、討論形式で進める。学生の問題意識に基づき、国内外の論文のクリティーク、研究疑問の絞込み、研究計画を立案する基礎能力を養う。(共同/全30回)</p> <p>【授業計画】 第 1～8講：課題設定、文献レビュー、研究計画の検討 第 9～11講：研究課題発表会 第12～15講：研究計画の検討 第16～18講：研究計画中間発表会 第19～27講：研究計画書作成 第28～30講：まとめ、研究計画発表会</p>				
使用 テキスト	特に定めない				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価 基準	発表資料・プレゼンテーション50%(研究課題発表15%、研究計画中間発表15%、研究計画発表20%)、ディスカッション30%、事前事後学修20%				
事前事後 学修	研究過程を通して、主体的で能動的な学修参加を期待します。				

授業科目	公衆衛生看護学特論	時間割コード		90501	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	滝澤 寛子 ・ 三輪 眞知子				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 公衆衛生看護の基本理念、個人の行動変容、家族支援、コミュニティの変革と支援に関する概念、理論及び活動の方法論について理解を深め、公衆衛生看護実践およびその科学的根拠をもった探究力を養い、公衆衛生看護を担う保健師としてのアイデンティティを培う。</p> <p>【目標】 1)公衆衛生看護の歴史、基本理念から保健師の役割が考察できる。 2)個人及び家族のケア、コミュニティ(特定集団・地域)に関する理論的基盤、構成する概念を理解し有効に機能させるための支援方法について考察できる。 3)1)・2)を踏まえて公衆衛生看護実践への適応可能性と課題、具体的方法の提案を論じることができ、さらに科学的根拠をもって探究する必要性について説明できる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				○
授業計画	<p>【授業概要】 講義およびディスカッションを行う。また、家族を単位とした個人・家族のケア、コミュニティ(特定集団・地域)支援に関する概念・理論、方法論に関するプレゼンテーションと、それを踏まえた事例検討を行い理解を深める、実践への適用可能性と課題、効果的な具体的支援方法、今後の看護実践の方向性についてディスカッションを通して深め、科学的根拠をもった探究心を養う。</p> <p>【授業計画】 (滝澤寛子/11回 第1講、第4講～第11講、第14講、第15講) (三輪眞知子 /4回 第2講、第3講、第12講、第13講) 第1講：公衆衛生看護の理念と目的 第2講：公衆衛生看護の歴史：保健師の使命と役割の視点 第3講：公衆衛生看護の歴史：近年の保健・医療・福祉・教育政策 第4講：公衆衛生看護の基盤となる概念 第5講：公衆衛生看護の対象と活動方法 第6講：地域社会の最小単位としての個人・家族への支援：アセスメント 第7講：地域社会の最小単位としての個人・家族への支援：行動変容 第8講：地域社会の最小単位としての個人・家族への支援：支援の展開 第9講：生活基盤としての地区・小地域への支援：アセスメント 第10講：生活基盤としての地区・小地域への支援：支援の展開 第11講：住民との協働による地域づくり：保健師の活動の在り方と住民と協働するための技術 第12講：住民との協働による地域づくりの理論：コミュニティオーガニゼーション・CBPR・コミュニティエンパワメント 第13講：住民との協働による地域づくりに関する支援方法：具体的事例 第14講：公衆衛生看護活動の展開：個のから地域の健康課題への展開 第15講：公衆衛生看護の倫理</p>				
使用 テキスト	麻原きよみ責任編集、公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論、医歯薬出版株式会社。				
参考図書	金子仁子編著、保健の実践科学シリーズ 行政看護学、講談社。 その他適宜紹介する				
成績評価 基準	課題・レポート80% 討議・授業への参加態度20%				
事前事後 学修	常に疑問を持ち、不明点はまず、自らリサーチして課題を解消する習慣をつける。				

授業科目	健康教育・地区組織育成特論	時間割コード		90502	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	滝澤 寛子 ・ 河田 志帆				
授業目的・目標	<p>【目的】 健康教育の基本的知識、グループの特性を理解し、看護職が行う健康教育の意義と、ヘルスプロモーション推進に向けた健康教育・地区組織活動と看護職の役割について考究する。</p> <p>【目標】 1)看護職が行う健康教育の目的、意義を説明できる。 2)保健行動を促す教育的かかわりで重視する点を列挙できる。 3)地域で展開する健康教育の企画、実施、評価の過程とその大事な視点を説明できる。 4)グループの特性、および、グループ活動の意義と支援者の役割を説明できる。 5)ヘルスプロモーション推進に向けた健康教育・地区組織活動と、看護職の役割について自分の考えを述べることができる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 知をいづくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいづくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。 ◎</p> <p>3) 命をいづくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ○</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 健康教育の基本的知識を理解し、健康教育の目的、方法を学ぶ。行動変容の関連理論を理解するだけでなく、対象者のセルフケア能力を高める必要性を理解し、セルフケア能力の獲得を促す健康教育方法について学習する。また、グループを単位とする活動の特徴についても理解し、ヘルスプロモーション推進に向けた健康教育・地区組織活動と看護職の役割について考究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：健康の概念、健康教育の目的 第2講：健康づくりに関する能力 第3講：保健行動と関連理論 第4講：グループの特性 第5講：保健行動を促す保健指導(1) 第6講：保健行動を促す保健指導(2) 第7講：健康教育の方法 第8講：地区活動として行う健康教育の展開 第9講：健康教育企画書の作成(1) 第10講：健康教育企画書の作成(2) 第11講：健康教育企画書の作成(3) 第12講：健康教育指導案の作成(1) 第11講：健康教育指導案の作成(2) 第14講：地区組織の育成：セルフヘルプ・グループ活動 第15講：地区組織の育成：地区住民組織と協働活動</p>				
使用テキスト	標準保健師講座2 公衆衛生看護技術、中村裕美子他著、医学書院。				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	課題評価60% レポート40%				
事前事後学修	テキストの該当ページを読み予復習すること 講義内容を踏まえて計画的に課題に取り組むこと				

授業科目	公衆衛生看護管理論	時間割コード		90503	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	滝澤寛子・堀井とよみ				
授業目的・目標	<p>【目的】 公衆衛生看護管理の重要性を理解し、健康危機管理・人材育成等のリーダーシップが発揮できる統括保健師としての能力を修得する。</p> <p>【目標】 1)公衆衛生看護管理の意義と機能が理解できる。 2)保健活動の質保証ができる能力を修得する。 3)管理的保健師の役割を理解し、基本的視点を修得する。 4)健康危機管理時の公衆衛生看護活動を理解し、平常時の活動ができる能力を修得する。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎
授業計画	<p>【授業概要】 公衆衛生看護管理の特色などについて概説し、公衆衛生看護管理の基本や諸相を理解し、新任期から担う役と統括保健師としての機能や役割、人材育成、健康危機管理について理解できる。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (滝澤寛子/2回 第8講、第14講) (堀井とよみ/13回 第1講～7講、第9講～第13講、15講) 第1講:公衆衛生看護管理の特色・定義 第2講:公衆衛生看護管理の基本 第3講:公衆衛生看護管理の諸相① 第4講:公衆衛生看護管理の諸相② 第5講:保健師活動指針の理解・統括保健師の役割 第6講:公衆衛生看護管理におけるPDCAサイクルの活用 第7講:公衆衛生看護管理と地域ケアシステムづくりの実際 第8講:都道府県及び市町村における健康危機管理 第9講:保健師のキャリアラダーとキャリアパス 第10講:管理的ポストが担う公衆衛生看護管理 第11講:地域の医療と福祉の安全管理 第12講:DVD鑑賞 第13講:DVDから考える保健師活動についてディスカッション 第14講:感染症集団発生時の保健活動 第15講:公衆衛生看護管理のまとめとレポート</p>				
使用テキスト	1. 最新保健学講座5 公衆衛生看護管理、平野かよ子他著、メヂカルフレンド社。 2. 新版保健師業務要覧第4版、日本看護協会出版会。				
参考図書	日本看護協会『保健師活動指針活用ガイド』				
成績評価基準	レポート50% ディスカッション50%				
事前事後学修	履修している公衆衛生看護学関係科目と関連について事前事後学習をする。				

授業科目	学校保健論・産業保健論		時間割コード		90504	
			授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
			講義	2(30)	選択	1後
担当教員	堀井 節子(学校保健論)・河田 志帆(産業保健論)					
授業目的・目標	学校保健論	<p>【授業目的】 学校保健の目的と制度、基礎的な展開方法、児童生徒の健康課題などを理解して、学校保健と連携・協働した地域保健活動のあり方を考察する。</p> <p>【目標】 1)学校保健の目的及び内容、制度を理解する。 2)学校保健活動の展開方法を理解する。 3)児童生徒の今日的な健康課題を理解する。 4)すべての教職員及び地域の関係機関と連携した学校保健の重要性を理解する。 5)学校保健と連携・協働した地域保健活動のあり方を考察する。</p>				
	産業保健論	<p>【授業目的】 業務に起因する健康障害の予防、健康と労働の調和、健康および労働能力の保持増進を図るための個人および集団に向けた産業保健活動について理解し、健全な職業生活を支える保健師の役割について考究する。</p> <p>【目標】 1)産業保健に係る関連法規や安全衛生管理体制について理解できる 2)産業保健の動向と現状を理解し、労働者の健康課題について検討できる 3)健全な職業生活を支える保健師の役割について考究できる 4)地域保健と連携した包括的なヘルスケアシステムを考究できる</p>				
DPとの対応	1) 智をいつくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいつくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。					
	3) 命をいつくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。					
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。					
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ◎					
授業計画	学校保健論(全8回)	<p>【授業概要】 学校における保健活動の実際を教授し、児童生徒の健康課題を理解し、地域保健行政とのつながりを理解する。学校保健と地域保健の連携など包括的ヘルスケアシステムについて教授する。</p> <p>【授業計画】 第1講:学校保健の目的と内容、歴史 第2講:学校保健行政と学校保健担当者 第3講:学校保健計画と保健教育・保健管理・組織活動 第4講:学校安全計画と安全教育・安全管理・組織活動 第5講:児童生徒の今日的な健康課題 第6講:特別支援教育の現状と課題 第7講:すべての教職員及び地域の関係機関と連携した学校保健の推進 第8講:事例で考える学校保健との連携・協働による地域保健活動の展開</p>				
授業計画	産業保健論(全7回)	<p>【授業概要】 産業分野(企業等)における保健活動の実際を教授し、労働者の健康問題について理解し、地域の行政とのつながりを理解する。産業保健と地域保健の連携等包括的ヘルスケアシステムについて教授する。</p> <p>【授業計画】 産業保健論(河田 志帆/7回) 第9講:産業看護の理念と目的 第10講:産業保健・産業看護の歴史と制度 第11講:労働安全衛生関連法規と労働安全衛生管理体制 第12講:生活習慣病予防対策 第13講:メンタルヘルス対策及び過重労働による健康障害防止対策 第14講:配慮が必要な労働者への対応 第15講:地域・職域連携</p>				

授業科目	公衆衛生看護活動特論Ⅰ	時間割コード		90505	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	河田 志帆				
授業目的・目標	<p>【目的】 発達段階および健康段階に応じた保健活動について理解し、公衆衛生看護の目的・目標を実現するために地域で生活する人々の健康を支援する保健指導技術を展開する能力を修得する。</p> <p>【目標】 1)発達段階・健康課題の特性に応じた保健活動とその動向・施策・制度が説明できる。 2)各保健活動に必要な連携体制や社会資源を説明できる。 3)対象の特性に応じた保健指導方法について説明できる。 4)保健師活動の基本となる家庭訪問の重要性について説明できる。 5)支援技術の実践に必要な解剖・生理・病態学、発育・発達、フィジカルアセスメント、社会資源、地域特性、社会経済背景の知識を獲得する必要性と方法について説明できる。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎
授業計画	<p>【概要】 公衆衛生看護の支援技術である家庭訪問、健康相談、保健指導の目的、特徴、理論、展開方法について学ぶ。特に家庭訪問については保健師の基本技術とし、科学的根拠に基づく保健指導ができる知識を学ぶ。また、対象の特性に応じた公衆衛生看護活動の展開を学ぶ。</p> <p>【授業計画】 第1講：母子保健活動 第2講：成人保健活動 第3講：高齢者保健活動 第4講：精神保健活動 第5講：障害者(児)保健活動 第6講：難病保健活動 第7講：感染症保健活動 第8講：保健指導の目的、特徴、展開方法 第9講：保健指導の展開①(健康相談) 第10講：保健指導の展開②(健康診査) 第11講：保健指導の展開③(家庭訪問) 第12講：保健指導の展開④(家庭訪問) 第13講：保健指導の展開④(家庭訪問) 第14講：保健指導の展開⑤(家庭訪問) 第15講：対象の特性に応じた支援技術の展開</p>				
使用テキスト	標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	課題・レポート80% 授業への参加態度20%				
事前事後学修	テキストの該当ページを読み予習・復習をすること 社会情勢に興味関心を持ち情報収集を行うこと				

授業科目	公衆衛生看護活動特論Ⅱ	時間割コード		90506	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	滝澤 寛子 ・ 河田 志帆				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 地域診断の目的、特徴、展開方法について理解し、支援技術の必要性、専門性について探求し、支援技術を展開する能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 公衆衛生看護の支援技術である地域診断の目的、特徴、展開方法について説明できる。 2) 保健師活動の基本となる地域診断の重要性について説明できる。 3) 支援技術の実践に必要な解剖・生理・病態学、発育・発達、フィジカルアセスメント、社会資源、地域特性、社会経済背景の知識を獲得する必要性と方法について説明できる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいつしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいつしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいつしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。 ○</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ◎</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 地域診断の目的、特徴、展開方法について理解し、支援技術の必要性、専門性について探求し、支援技術を展開する能力を修得する。具体的には、公衆衛生看護の支援技術である地域診断の目的、特徴、展開方法について学習し、保健師活動の基本となる地域診断の重要性について考究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：地域診断の目的 第2講：地域診断の意義・視点 第3講：地域診断に必要な理論 第4講：地域診断に必要なモデル 第5講：地域診断に必要なツール 第6講：地域診断に必要な質データ 第7講：地域診断に必要な量データ 第8講：個別課題から地域課題への展開：質データと量データの統合 第9講：地域診断の展開方法①情報収集 第10講：地域診断の展開方法②ニーズアセスメント 第11講：地域診断の展開方法③健康問題の抽出 第12講：地域診断の展開方法④健康課題の明確化 第13講：地域診断の展開方法⑤実施計画 第14講：地域診断の展開方法⑥評価計画 第15講：まとめ</p>				
使用 テキスト	佐伯和子責任編集,公衆衛生看護学テキスト2,公衆衛生看護技術,医歯薬出版KK				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価 基準	課題・レポート80% 授業・ディスカッションへの参加状況20%				
事前事後 学修	<p>予習：居住する市町村の広報を入手し住民へ提供する健康情報を理解しておくこと。 家族や周囲の人々の健康情報の収集方法、健康行動について観察やインタビューをしておくこと。 健康や健康政策に関する新聞記事に毎日目を通しておくこと。 復習：講義内容を復習し、ノートにまとめておくこと。</p>				

授業科目	公衆衛生看護活動演習 I	時間割コード		90507	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	2(60)	選択	1前
担当教員	河田 志帆 ・ 滝澤 寛子				
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 公衆衛生看護の支援技術である家庭訪問や健康相談について科学的根拠に基づき展開する知識、態度、技術を修得する。また、個の抱える課題が地域全体の課題であると捉える能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 家庭訪問と健康相談についての事例を通じて、科学的根拠に基づいた展開ができる。 2) 事例を通じて、予防的アプローチを行うための動機付けとなる面接技術を修得する。 3) 事例を通じて、対象が潜在的に抱える課題を聞き取るためのコミュニケーション能力を修得する。 4) 事例を通じて、対象に必要な各種保健サービスや制度の適用や開発を検討できる。 5) 事例を通じて、対象が抱える課題が地域全体の課題であると捉える能力を修得する。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。 ○</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ◎</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 事例を通じ、家庭訪問や健康相談について科学的根拠に基づいた支援計画を作成し、ロールプレイ等を通じて支援技術を学ぶ。また、対象者が持つ特性に応じ、動機付けや潜在的な問題を把握する面接技術やコミュニケーション能力をロールプレイ等を通じて修得する。さらに個別の支援事例を通じて、対象者が生活する地域の生活実態や医療福祉の状況等を関連づけて地域全体の支援を検討することを学ぶ。</p> <p>【授業計画】(共同) 第1・2講：母子保健活動の実際 第3・4講：成人保健活動の実際 第5・6講：高齢者保健活動の実際 第7・8講：障害者(児)保健活動の実際 第9・10講：精神保健活動の実際 第11・12講：難病保健活動の実際 第13・14講：感染症保健活動の実際 第15-20講：健康相談の実際(ロールプレイを通じた面接技術) ・ニーズを捉えるコミュニケーション ・生活背景を捉えるコミュニケーション 第21・22講：家庭訪問の実際①(ニーズアセスメント) 第23-26講：家庭訪問の実際②(支援計画の立案) 第27・28講：家庭訪問の実際③(家庭訪問のロールプレイ) 第29講：家庭訪問の実際④(評価) 第30講：事例を通じた地区活動への展開</p>				
使用 テキスト	標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価 基準	レポート60% 演習への参加状況40%				
事前事後 学修	予習：公衆衛生看護活動特論 I の内容を踏まえ、演習課題に取り組む準備をすること 復習：演習後の記録、評価をすること				

授業科目	公衆衛生看護活動演習Ⅱ	時間割コード		90508	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	2(60)	選択	1前
担当教員	河田 志帆 ・ 滝澤 寛子				
授業目的・目標	<p>【目的】 健康問題に関連する地域の様々な情報を包括的に収集し、理論やPDCAサイクルをふまえて一連の地域診断の過程を展開できる能力を養う。科学的根拠のあるデータを基に健康課題を明らかにして支援計画が作成でき、説得力のある提示ができる能力を養う。</p> <p>【目標】 1)健康問題に関連する地域の様々な情報を包括的に収集できる。 2)理論やPDCAサイクルをふまえた一連の地域診断の過程の展開ができる。 3)科学的根拠のあるデータを基にして健康課題を明らかにし支援計画が作成でき、説得力のある提示ができる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。 ○</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ◎</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 公衆衛生看護学実習Ⅱaで出向く実習地域を事例として、公衆衛生看護活動特論Ⅱで学修した地域診断のプロセスに則って地域の生活環境や生活実態、健康状態に関する情報を収集・分析し、地域に顕在化・潜在化している地域住民の健康課題を明らかにする。さらに健康課題を解決するため活動計画および評価計画を立案し、根拠に基づき提示する。 既存資料に加え、地区踏査等、さまざまな情報を包括的に収集・分析し、健康課題を明確にして活動計画を立案する一連の過程について演習を行う。</p> <p>【授業計画】(共同) 第1・2講：地域の概要の情報収集と分析 第3・4講：地域のコア(人口集団)の情報収集と分析 第5・6講：地域のサブシステム(人々を取り巻く環境)の情報収集と分析① 第7・8講：地域のサブシステム(人々を取り巻く環境)の情報収集と分析② 第9・10講：人々を取り巻く環境のマップ作り 第11・12講：人々の健康と生活の情報収集と分析① 第13・14講：人々の健康と生活の情報収集と分析② 第15・16講：人々の健康と生活の情報収集と分析③ 第17・18講：人々の健康と生活の情報・アセスメントの共有と健康課題の検討 第19・20講：地区踏査計画の立案 第21・22講：地区踏査の実施 第23・24講：アセスメントの統合・健康課題の構造化と健康課題の抽出 第25・26講：活動計画・評価計画の作成 第27・28講：健康課題・活動計画のプレゼンテーションの資料準備 第29・30講：健康課題・活動計画のプレゼンテーションの実施と評価</p>				
使用テキスト	特になし				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準保健師講座1公衆衛生看護学概論,医学書院,2015. ・標準保健師講座2公衆衛生看護技術活動,,医学書院,2015. ・標準保健師講座3公衆衛生看護活動,医学書院,2015. ・エリザベスT.アンダーソン他編,コミュニティ・アズ・パートナーモデル,医学書院,2007. ・厚生労働統計協会,国民衛生の動向,2017. 				
成績評価基準	レポート・地域診断80% 演習への取り組み・ディスカッション参加状況20%				
事前事後学修	<p>予習：演習に用いる資料を準備し、演習課題の案を作成しておくこと。</p> <p>復習：演習後の記録、評価をしておくこと。</p>				

授業科目	保健統計学	時間割コード		90509	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択(コース必修)	1後
担当教員	齋藤 真				
授業目的 目標	<p>【目的】 本講義では、統計学の考え方と分析技術を習得し、公衆衛生看護学や疫学等で扱うさまざまなデータを分析、予測することを学ぶ。これによって疾病を予防し、健康水準を高める方策について科学的に理解する。本講義では統計学を基本にSPSSを用いたデータ集計技法を中心に解説をする。</p> <p>【目標】 1) 公衆衛生看護における保健統計学の意義が理解できる。 2) データを分析し、科学的思考ができる。 3) SPSSを活用できる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。 ◎</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ◎</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療分野における統計学について 2. SPSSの操作方法について 3. 記述統計について(データの分布、基本統計量) 4. クロス集計について 5. 推定と検定、パラメトリックとノンパラメトリック 6. 母平均の検定、平均値の差の検定(対応なし)、平均値の差の検定(対応あり) 7. マンホイットニーのU検定、ウィルコクソンの符号付き順位検定 8. カイ2乗検定(適合度の検定、独立性の検定(2×2)、分割表(m×n)、残差分析) 9. 相関係数(ピアソン積率相関係数)と一時回帰 10. 順位相関(ケンドールのτとスピエマンのρ) 11. 一元配置分散分析と多重比較(対応なし) 12. 一元配置分散分析と多重比較(対応あり) 13. フリードマン検定 14. クラスカル・ウォリス検定 15. まとめ 				
使用 テキスト	オリジナルテキストを配布する				
参考図書	SPSSの資料は開講時に配る。				
成績評価 基準	レポート(50%)、講義内課題(50%)				
事前事後 学修	事前に教科書で概要を確認し、事後に自ら課題を行って確認をすること。				

授業科目	疫学	時間割コード		90510	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択(コース必修)	1後
担当教員	齋藤 真				
授業目的 目標	<p>【目的】 人間集団の健康問題を解決することを目指す公衆衛生において、必要な疫学の原理および基礎的方法について理解する。具体的には、疫学の目的と方法、人間の健康問題に疫学がどのように関係するのかを理解する。また、公衆衛生におけるデータがどのように活用されるかを知る。さらに疫学で用いられる健康指標、疫学調査法を集団の健康状態の把握や分析に活用する知識を修得する。</p> <p>【目標】 1) 疫学における基本的概念と用語を理解できる。 2) 疫学研究の一連の流れを理解できる。 3) 公衆衛生看護活動の展開に活用できる能力を修得できる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいづくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいづくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいづくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				◎
授業計画	<p>1. 疫学とは 第1章「疫学とは何か」、2章「疾病の発生原因の解明の追究までの流れと関連事項」 2. 疫学で用いられる指標① 第3章「疫学で用いられる指標」 3. 疫学で用いられる指標② 第3章「疫学で用いられる指標」 4. 疫学の母集団と標本 第4章「疫学研究を始める前に」 5. 演習①（講義1～4.回までの演習と解説） 6. 疫学の研究方法(記述疫学) 第5章「記述疫学」 7. 疫学の研究手法(分析疫学①) 第6章「分析疫学」 8. 疫学の研究手法(分析疫学②、介入研究) 第6章「分析疫学」、第7章「介入研究」 9. 因果関係、交絡因子、バイアス等 第9章「バイアスと交絡」、第10章「因果関係」 10. スクリーニング 第11章「スクリーニング」 11. 演習②（講義6～10.回までの演習と解説） 12. 疫学で用いられる統計的手法 第14章「疫学で用いられる統計的手法とその解釈」 13. 疫学の応用(臨床研究、倫理) 第18章「疫学研究と倫理」 14. 人口静態・動態、生命表 第15章「生命表・平均寿命」、 第16章「保健統計調査」、国民衛生の動向 第2編「衛生の主要指標」 15. まとめ 演習問題の解説</p>				
使用 テキスト	はじめて学ぶやさしい疫学(日本疫学会監修, 南江堂)				
参考図書	国民衛生の動向				
成績評価 基準	レポート(50%)、講義内課題(50%)				
事前事後 学修	事前に教科書を熟読, 事後に確認をすること。				

授業科目	保健医療福祉行政システム論	時間割コード		90511	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	石井 敦子 ・ 堀井 とよみ				
授業目的・目標	<p>【目的】 地域の人々に必要な保健医療福祉政策が提言できる保健師としての能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 我が国の保健医療福祉政策の現状と課題及び行政システムを理解する。 2) 諸外国の保健医療福祉政策を理解する。 3) 都道府県の保健福祉医療政策の現状と課題及び行政システムを理解する。 4) 市町村の保健福祉医療政策の現状と課題及び行政システムを理解する。 5) 保健福祉医療政策と公衆衛生看護活動との関連を理解する。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				○
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎
授業計画	<p>【授業概要】 地域の人々に必要な保健医療福祉政策が提言できる保健師としての能力を修得する。具体的には、国・都道府県・市町村の保健・医療・福祉政策及びその政策を進める行政システムについて解説し課題について考察できる。計画策定や政策提言の仕組みについて教授し、公衆衛生看護活動における政策の重要性が理解できる。</p> <p>【授業計画】(オムニバス方式/全15回) (石井敦子/7回 第3講～4講、第9～13講) (堀井とよみ/8回 第1講～2講、第5講～8講、第14講～15講) 第1講: 保健医療福祉行政の法的基盤とその目標 第2講: 公衆衛生の基礎的内容の再確認と具体的事例の発表 第3講: わが国の保健医療福祉行政のしくみと機能 第4講: 都道府県の保健福祉政策の現状と課題 第5講: 市町村の保健福祉政策の現状と課題 第6講: 保健医療福祉行政における公衆衛生の専門職としての保健師の役割 第7講: 保健医療福祉計画の策定・実施・評価 第8講: 行政保健師と民間保健師の活動の特徴と違い 第9講: 保健医療福祉財政のしくみ① 第10講: 保健医療福祉財政のしくみ② 第11講: 保健師活動と政策① 第12講: 保健師活動と政策② 第13講: 都道府県の行政システム 第14講: 市町村の行政システム 第15講: 公衆衛生に関する国際的活動 保健医療福祉行政システム論 まとめ</p>				
使用テキスト	標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論、藤内修二他著、医学書院。				
参考図書	これからの保健医療福祉行政論第2版、星旦二・麻原きよみ他著、日本看護協会出版会。 その他は適宜紹介する				
成績評価基準	レポート50% プレゼンテーション50%				
事前事後学修	「地域包括ケアシステム論」、「公衆衛生看護管理論」とどのように連動しているのか復習や予習をする。				

授業科目	保健医療福祉行政システム論演習	時間割コード		90512	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	2(60)	選択	1後
担当教員	石井 敦子 ・ 堀井 とよみ				
授業目的・目標	<p>【目的】 地域の人々に必要な保健医療福祉政策が提言できる保健師としての能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 公衆衛生看護学実習Ⅲの行政組織を事例に保健行政システム及び地域の健康課題と行政の取り組みを理解する。 2) 公衆衛生看護学実習Ⅲの行政組織を事例に医療行政システム及び地域の医療課題と行政の取り組みを理解する。 3) 公衆衛生看護学実習Ⅲの行政組織を事例に福祉行政システム及び地域の福祉課題と行政の取り組みを理解する。 4) 公衆衛生看護学実習Ⅲの実習施設における地域包括ケアシステムの課題を抽出し、システム構築のための政策提言ができる。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				○
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎
授業計画	<p>【授業概要】 公衆衛生看護学実習Ⅲの行政組織を事例として、行政に関する情報を収集し、行政システムを理解する。疫学データや保健統計等を活用し、行政システムの課題を分析するとともに地域住民にとって必要な保健医療福祉政策が提供されるような解決策を探究する。地域住民の保健医療福祉の課題解決のための地域包括ケアシステムを考究し、必要な政策提言を模擬実施する。</p> <p>【授業計画】(オムニバス形式/全15回) (石井敦子/14回 第1講～14講) (堀井 とよみ/16回 第15講～第30講) 第1講: 保健医療福祉行政と保健師活動(復習) 第2講: 既存資料からの情報収集及び分析① 第3講: 既存資料からの情報収集及び分析② 第4講: 既存資料からの情報収集及び分析③ 第5講: 既存資料からの情報収集及び分析④ 第6講: 地区踏査計画立案(地域サーベイ) 第7講: 地区踏査計画立案(住民・関係者聞き取り) 第8講: 地区踏査実施(地域サーベイ) 第9講: 地区踏査実施(住民聞き取り) 第10講: 地区踏査実施(関係者聞き取り) 第11講: 地区踏査情報整理 第12講: 地区踏査情報整理と対象の焦点化 第13講: 焦点化した対象住民の生活関連図作成 第14講: 健康課題明確化 第15講: 行政における政策化のプロセス(復習) 第16講: 実習施設における地域包括ケアシステムの考え方 第17講: 保健医療福祉行政システムの課題の統合化及び地域の保健課題の解決方法 第18・19講: 政策提言のための地域の現状と問題の抽出 第20・21・22講: 問題と現状から原因を分析 第23講: 焦点化した地域保健課題の抽出 第24・25・26講: 地域保健課題に対する保健活動の立案 第27・28講: 政策提言書作成 第29講: 政策提言パワーポイントスライド作成及びプレゼンテーション準備 第30講: 政策提言のプレゼンテーション及びまとめ</p>				
使用テキスト	標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論, 藤内修二他著 医学書院.				
参考図書	『政策形成の本質』 真山達志著、成文堂.				
成績評価基準	レポート(政策提言書を含む)80% グループディスカッション参加20%				
事前事後学修	公衆衛生看護活動特論Ⅱおよび特論Ⅱ演習で行う地域診断ツール、プロセスの予習復習。				

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅰ	時間割コード		90513	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	1(45)	選択	1通
担当教員	石井 敦子				
授業目的・目標	<p>【目的】 継続家庭訪問を行う中で、「個人・家族、集団への支援」を学び、高齢者及び高齢者を取り巻く家族1事例の継続支援技術を修得する。また、対象と人間関係を構築できる対人関係能力を養うとともに、自立心と判断力を修得する。</p> <p>【目標】 1)対象者の健康状態や家族の状況、地域での生活、社会資源を理解し、地域での健康な生活を支援する意義を考えることができる。 2)対象者と関係を構築できる対人関係能力を養うとともに個人、家族、集団に対する支援力が修得できる。 3)個人、家族、集団の抱える問題を地域全体の課題として捉えることができる能力が修得できる。 4)個人、家族、集団、地域の潜在的な健康課題を明確化して解決することができるよう公衆衛生を担う専門職である保健師としての倫理観や感受性、責任感を身につけることができる。 5)最新の知識・技術を自ら学び続ける学究的態度を身につけ、実習先の資料収集を行い、実習により生じた疑問等を特別研究において探究することができる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 継続家庭訪問を行う中で、「個人・家族、集団への支援」を学び、高齢者及び高齢者を取り巻く家族1事例に対して、個人・家族を単位として継続支援する。対象と人間関係を構築できる対人関係能力を養うとともに、自立心と判断力を修得する。 1) 臨地実習(NPOみなち保健福祉専門職支援センター・ケアプランセンター) 2) 学内での事前・事後学習</p> <p>【授業計画】 <9月> ・実習前オリエンテーション <10月～2月> ・家庭訪問前の指導保健師、担当保健師、教員参加の事例調整会議の開催 ・1事例に対して月1回程度の家庭訪問による個別支援の実施 ・毎回、家庭訪問後の事例検討会の実施 ・事例検討会を通して、ケアマネジメントと必要な社会資源を考察 ・必要なサービスの実施 <2月～3月> ・家庭訪問後の全体まとめ ・事例検討報告会の開催 ・レポートの作成</p>				
使用テキスト	保健師コース科目で使用したすべてのテキスト				
参考図書	適宜、提示します。				
成績評価基準	事前学習10%、実習態度30%、事例検討会でのディスカッション20% 実習記録・レポート40%				
事前事後学修	実習開始前に、保健師コースで履修した内容を復習しておくこと。 事前課題は事前に提示します。				

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ-a	時間割コード		90514	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	4(180)	選択	1前
担当教員	河田 志帆 ・ 滝澤 寛子				
授業目的 目標	<p>【目的】 「個人、家族、集団への支援」を深めるとともに、都市型地域における「公衆衛生看護活動展開論」及び「公衆衛生看護管理論」を学び、「個人、家族、集団、地域の複雑化潜在化している健康問題に対応できる保健師」、「地域の健康課題を解決する方策を探求し、施策の企画、立案、実施及び評価等のPDCAサイクルによる公衆衛生看護管理が展開できる保健師」の能力を修得する。</p> <p>【目標】 1)保健事業の参加及び個別への支援を積み重ねることにより公衆衛生看護活動の基盤となる知識や態度を身につける。 2)都市型地域における公衆衛生看護の実施機関である保健所・保健センターの機能と所属する保健師の役割について理解するとともに、地域特性をふまえた地域における公衆衛生看護活動の展開プロセスを主体的に体験して学ぶ。 3)地域住民が抱える潜在ニーズや健康課題の実際を理解し、集団、地域への支援を探究する。 4)乳幼児健診・特定健診の未受診者への支援、結核の治療中断者等への支援、複雑な健康問題を有する人々への支援の実際を通して具体的な支援方法を学ぶ。 5)「公衆衛生看護活動演習Ⅱ」において明らかにした実習先の健康課題をふまえた公衆衛生看護活動の展開を行い、健康課題の解決に向けて地域特性を考慮した公衆衛生看護活動の実施・評価ができる能力を養う。 6)地域住民及び保健・医療・福祉の連携・協働の実際、関係機関と関係を構築し、協働活動を展開できる能力を養う。 7)災害保健活動及び感染症保健活動、虐待予防といった健康危機管理の実際を理解し、平常時に必要な知識・態度・支援方法を習得し、健康危機管理の課題を探究する。 8)都市型組織における統括保健師の役割と機能について理解し、公衆衛生看護管理の実際を探究する。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいづくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいづくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。 ○</p> <p>3) 命をいづくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。 ○</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。 ○</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ◎</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 「個人、家族、集団への支援」を深めるとともに、都市型地域において「公衆衛生看護活動展開論」および「公衆衛生看護管理論」を学び、「個人、家族、集団地域の複雑化潜在化している健康問題へ対応できる保健師」「地域の健康課題を解決する方策を探求し、施策の企画、立案、実施及び評価等のPDCAサイクルによる公衆衛生看護管理が展開できる保健師」を育成する。 1) 臨地実習(京都市内保健福祉センター) 2) 学内での事前準備学習(課題学習等)</p> <p>【授業計画】(共同) ＜臨地実習での内容＞ ・オリエンテーション ・家庭訪問 ・各種保健事業への参加 ・各種地域ケア関連会議への参加 ・地区組織活動への参加 ・保健師のシャドウイング ・健康危機管理に関する講話 ・カンファレンス ＜学内＞ ・行政保健師の役割について意見交換 ・実習全体のまとめ</p>				
使用 テキスト	保健師コース科目で使用したすべてのテキスト				
参考図書	保健師コース科目で使用したすべての参考図書				

成績評価 基準	事前学習10%、実習態度30%、カンファレンスでのディスカッション10% 実習記録・レポート40%、地域診断・活動計画10%
事前事後 学修	自己の実習目標を明確にして行動計画を立て、事前学習をして臨地に臨むこと。実習経験を振り返り、実習目標に照らし合わせて意味づけをしておし記録する。理解が不足する部分については、どのように学修をすすめるか検討し実習計画を立てて臨む。

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ-b	時間割コード		90515	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	2(90)	選択	2前
担当教員	滝澤 寛子 ・ 河田 志帆				
授業目的・目標	<p>【目的】 「個人・家族、集団、組織への支援」を深めるとともに、農山村型地域において「公衆衛生看護活動特論・演習」及び「公衆衛生看護管理論」を学び、「複雑化かつ地域特性のある健康問題に対応できる保健師」、「地域の健康課題を解決する方策を探究し、施策の企画、立案、実施および評価等のPDCAサイクルによる公衆衛生看護活動が展開できる保健師」を養成する。</p> <p>【目標】 1)個人・家族、集団、地域の健康の保持増進のための公衆衛生看護活動を理解し、科学的かつ論理的思考に基づき、理論を活用した公衆衛生看護活動の実践能力を身につけることができる。 2)実習地域の個人・家族、集団、地域の健康課題の解決に向け、地域住民、保健・医療・福祉・教育・産業の関係機関と連携協働しながら公衆衛生看護活動を展開する力を修得する。 3)個人・家族、集団、地域の健康の保持増進のための公衆衛生看護活動の質を保証する機能として統括保健師の役割を理解し、探究することができる。 4)健康危機管理の実際を理解し、平常時に必要な知識・態度を身につけることができる。 5)市町保健センターの機能及び所属する行政保健師としての役割について理解し、具体的活動を修得することができる。 6)個人・家族、集団、地域の潜在的な健康課題を明確化し、解決することができるよう公衆衛生を担う専門職である保健師としての倫理観や感受性、責任感を身につけることができる。 7)最新の知識、技術を自ら学びつづける学究的態度を身につけ、実習により生じた疑問等を特別研究において探究することができる。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				
	2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○
	3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				○
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				○
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎
授業計画	<p>【授業概要】 「個人、家族、集団への支援」を深めるとともに、農山村型地域において「公衆衛生看護活動展開論」および「公衆衛生看護管理論」を学び、「複雑化かつ地域特性のある健康問題へ対応できる保健師」「地域の健康課題を解決する方策を探究し、施策の企画、立案、実施及び評価等のPDCAサイクルによる公衆衛生看護管理が展開できる保健師」を育成する。特に、地域特性の応じた公衆衛生看護活動について学び、その実践能力を高める。 1) 臨地実習(富山県朝日町保健センター) 2) 学内での事前・事後学習</p> <p>【授業計画】(共同) ＜臨地実習での内容＞ ・オリエンテーション ・保健事業等への参加 ・健康教育の実施 ・統括保健師のシャドウイング ・健康危機管理に関する講話 ・カンファレンス ＜学内＞ ・行政保健師の役割について意見交換 ・実習全体のまとめ</p>				
使用テキスト	保健師コース科目で使用したすべてのテキスト				
参考図書	適宜、提示します				
成績評価基準	事前学習10%、実習態度30%、カンファレンスでのディスカッション10% 実習記録・レポート50%				
事前事後学修	実習開始前に、保健師コースで履修した内容を復習しておくこと。 事前課題は事前に提示します。				

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅲ	時間割コード		90516	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		実習	3(135)	選択	2前
担当教員	石井 敦子 ・ 堀井 とよみ				
授業目的・目標	<p>【目的】 各種保健医療福祉計画に基づく施策化、ネットワーク等々の公衆衛生看護活動展開の技術を用いて政策提言における保健師の役割を学ぶとともに、実習先の保健師と協働して、地域包括ケアシステムを構築し、推進できる能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 行政の保健福祉医療計画に基づく施策化及び保健師の役割、関係機関との連携・協働の実際を通して、地域マネジメントが実践できる能力を修得できる。 2) 実習先市町の既存の地域包括ケアシステムの課題を学び、全世代を通して地域包括ケアシステム構築における保健師の役割を理解、探究することができる。 3) 実習先市町の特徴をふまえた新たな地域包括ケアシステムを政策提言し、実習先保健師と協働して実践する能力を修得できる。 4) 個人、家族、集団、地域の潜在的な健康課題を明確化して解決することができるよう公衆衛生を担う専門職である保健師としての倫理観や感受性、責任感を身につけることができる。 5) 最新の知識・技術を自ら学び続ける学術的態度を身につけ、実習と関連づけて特別研究において研究課題を探究できる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいつくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいつくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいつくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				○ ○ ○ ○ ○ ◎
授業計画	<p>【授業概要】 各種保健医療福祉計画に基づく施策化、ネットワーク等々の公衆衛生看護活動展開の技術を用いて政策提言における保健師の役割を学ぶとともに、実習先の保健師と協働して、地域包括ケアシステムを構築し、推進できる能力を修得する。 1) 臨地実習 2) 学内での事前準備学習(課題学習等)</p> <p>【授業計画】(共同) 【第1週】 ・学内オリエンテーション 準備学習 ・長浜市オリエンテーション ・地域包括ケアシステムの現状を地区踏査 ・関係職種機関からの聞き取り ・長浜市の地域包括ケアシステムの課題抽出 ・実習指導者とカンファレンス 【第2週】 ・長浜市において政策提言(健康福祉部長) (保健医療福祉行政システム論演習で作成した内容を修正) ・地域包括ケアシステムの課題解決に向けた具体的な支援活動について企画・立案 ・学内中間カンファレンス ・具体的支援活動に向けて、地区担当保健師から現状についてオリエンテーション ・地区担当保健師と共に関係機関へのあいさつ 以後は地区担当保健師了解のもと、関係機関・者に単独で連絡・調整、その後地区担当保健師への報告 【第3週】 ・地区担当保健師了解のもと、関係機関・者に単独で連絡・調整、その後地区担当保健師への報告 ・地区担当保健師へ具体的支援活動の進捗状況を報告・今後の支援方向を検討の後引継ぎ ・実習施設において、実習報告会 ・学内で実習のまとめ、面接</p>				

使用 テキスト	保健師コース科目でを使用したすべてのテキスト
参考図書	保健師コース科目でを使用したすべての参考図書
成績評価 基準	事前学習10% 実習態度30% カンファレンスでのディスカッション10% 実習記録・レポート30% 政策提言20%
事前事後 学修	行政に対して地域の課題解決に向けて政策提言するプロセスは地域診断から計画策定までと類似性がある。 実習Ⅱ a・Ⅱ bの地域診断プロセスを復習した上で実習Ⅲに臨む。